

「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その4）」

宮城学院女子大学 八木 祐子

1. はじめに

本稿は、筆者が、2018年に、北インド、ウッタール・プラデーシュ（Uttar Pradesh）州東部のアザムガル（Azamgarh）県で調査をおこない、婚姻儀礼のさいに収集した民俗歌謡の事例報告の続編、その4である。調査地域はボージプリー（Bhojpurī）というヒンディー語の東部方言を話す地域に属し、様々な民俗歌謡がうたわれる地域として知られている [八木 1990]。調査地域において、婚姻儀礼は、シャーディー（Śādī）、ゴウナー（Gaunā）、ドーゲー（Doge）の3段階にわたっておこなわれる。そのなかでも最も主要なシャーディーについて記述する。これらの様々な儀礼ごとに、婚姻儀礼の民俗歌謡（Vivah Kā Gīt）が、主に既婚女性たちによってうたわれる。1日目～6日目は、花嫁、花婿双方の家で儀礼がおこなわれる。婚姻儀礼の概要と1日目のウルド・チャーワル・チャンナー儀礼の民俗歌謡については、「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その1）」で報告 [八木 2020] し、4日目のウルド・カー・ドイヤー・ドナー、及び5日目のマンダップ・ウタルナーのさいにうたわれる民俗歌謡については「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その2）」で報告した [八木 2021b]。また、前号の「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その3）」で、マット・マンガラと呼ばれる6日目の儀礼と民俗歌謡について報告 [八木 2022] した。今回は、7日目の民俗歌謡の一部について報告する。

当該地域の先行研究や婚姻儀礼の詳しい過程、社会変化については、別稿を参照していただきたい [八木 1990, 1991, 1992, 1999, 2010, 2015, 2021a, 2022]。なお、とりあげる民俗歌謡の事例は、その1、その2、その3と続いているので、番号は前回の続きとする。

なお、本報告は、文部科学省の科学研究費基盤研究C「北インド、ボージプリー文化圏の民謡に関するジェンダー分析」（課題番号17K02032）の助成を受けており、本報告は、その成果報告の一部である。

2. 1日目の民俗歌謡

(1)～(3)については、その1で報告しているので、ここでは省略する。

3. 4日目の民俗歌謡

(1)については、その2で報告しているので、ここでは省略する。

4. 5日目の民俗歌謡

(1)については、その2で報告しているので、ここでは省略する。

おわりに

本稿では、7日目の婚姻儀礼のさいにうたわれる民俗歌謡をとりあげた。7日目は、花嫁と花婿のそれぞれの家で、ほぼ同様の儀礼がおこなわれた後、夕方から夜にかけて、花婿一行が花嫁の家に到着し、様々な儀礼がおこなわれる。本稿では、7日目の半分ほどの儀礼を紹介したが、この後、ピヤーフと呼ばれる花嫁と花婿がそろった一連の儀礼が、夜を徹しておこなわれる。ここからずっと、花嫁側の民俗歌謡が続くので、次稿で詳しくとりあげたい。

〈参考文献〉

八木祐子

- 1990 「婚姻儀礼と女性の歌—北インドの村から—」八木祐子編『女性と音楽』（民族音楽叢書 第2巻）57-76頁 東京書籍
- 1991 「儀礼・職能カースト・女性—北インド農村における通過儀礼と吉・凶の観念—『民族学研究』56巻2号 181-208頁
- 1992 「女性・歌・パフォーマンス—北インド農村の婚姻儀礼をめぐる一試論—」『南アジア研究』第4号 59-78頁
- 1999 「結婚・家族・女性—北インド農村社会の変容—」窪田幸子・八木祐子編『社会変容と女性：ジェンダーの文化人類学』ナカニシヤ出版 36-65頁
- 2010 「チャイからコーラへ—北インド農村における婚姻儀礼の変化—」『南アジアの社会を読み解く』鈴木正崇編 慶応大学出版会 85-107頁
- 2015 「アザムガルの民俗歌謡—婚姻儀礼と女性の歌—」『多民族社会における宗教と文化』No.19 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 37-52頁
- 2020 「ボーシプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その1）」『多民族社会における宗教と文化』No.23 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 3-17頁
- 2021a 「北インド社会における女性の儀礼と口頭伝承—婚姻儀礼を中心に—」江口久編 八木祐子・手塚恵子責任編集『儀礼と口頭伝承』風響社 133-152頁
- 2021b 「ボーシプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その2）」『多民族社会における宗教と文化』No.24 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 3-15頁
- 2022 「ボーシプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その3）」『多民族社会における宗教と文化』No.25 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 3-14頁

〈写真5～6〉写真5はパリチャン、写真はナークーン・ランガイーハがおこなわれた時のものである。パリチャンでは、母親が花嫁の頭上で、生活に必要な5つの品物を、左回りに5回ずつまわす。写真5では、コップに入った水をまわしている。そのさいに、事例28がうたわれた。ナークーン・ランガイーハは、床屋カーストの女性であるナウンが、花嫁を沐浴させ、吉兆な色である赤い色を手足に塗って化粧をする。写真6では、ナウンが、花嫁の足に、赤い色を塗っている。そのさいに、事例29、事例30がうたわれた。

〈写真5〉

〈写真6〉

〈写真7～8〉写真7は、花婿行列が、花嫁の家に到着したものである。花婿のスシールは、飾り立てられた小型車に乗って、花嫁の家に到着した。写真8は、花婿に対するアグワーニヤタージ・パヒラナーがおこなわれた時の写真である。そのさいに、事例31～35の民謡が、花嫁側の女性たちによってうたわれた。

〈写真7〉

〈写真8〉